

基幹型臨床研修病院訪問調査結果

年間入院患者数3,000名未満の 基幹型臨床研修病院訪問調査の概要

1 調査対象

平成23年4月時点で、基幹型臨床研修病院の指定に係る激変緩和措置※の適用対象となっており、かつ、調査期間中に研修医が在籍している29病院

※ 平成21年の制度見直しにより、基幹型臨床研修病院の指定基準に適合しなくなった病院については、研修医の募集を行う年度を起点として過去3年間に研修医の受入実績がある場合に限り、基幹型臨床研修病院としての指定を継続するという経過措置

2 調査の実施体制

- 1) 調査員 3名 (NPO法人卒後臨床研修評価機構の講習会を受講したサーベイヤーを含む)
- 2) 調査期間 平成23年11月 ~ 平成24年2月

3 調査方法

臨床研修病院としての外形基準の審査、診療経験に関する研修医の自己評価(アンケート)、研修医による症例呈示及び研修医に対するインタビュー等により、研修医の基本的診療能力と病院の指導・管理体制を調査する。

調査対象

開設者

開設者	病院数
自治体	5
医療法人	24
計	29

地域

管轄厚生局	病院数
北海道	2
東北	0
関東信越	6
東海北陸	4
中国四国	13
九州	4
計	29

年間入院患者数（人）および 病床数（床）ごとの対象病院数

年間入院患者数 \ 病床数	>149	150-199	200-249	250<	計
-1499	3	0	0	2	5
1500-1999	4	4	1	2	11
2000-2499	0	1	1	2	4
2500-	1	5	0	3	9
計	8	10	2	9	29

評価の視点

臨床研修病院の指導 管理体制に関する事項

- 研修を行うのに十分な症例や研修にふさわしい環境が整備されているか
- 研修医の診療内容や説明について、指導医等から適切な助言・指導が行われているか

研修医の基本的診療 能力に関する事項

- 患者・家族や他の医療従事者と十分なコミュニケーションをとり、良好な関係を築いているか
- 患者の問題を把握し、検査や治療の計画の全体像を把握して診療にあたり、臨床上の疑問を解決するための自己学習の習慣が身についているか

調査結果①(大項目・中項目) 評価(A/B/C、a/b/c)ごとの病院数

	A	B	C	計
総合評価	4 14%	23 79%	2 7%	29

1. 臨床研修病院の指導管理体制に関する事項	a	b	c	計
1) 研修を行うのに十分な症例や研修にふさわしい環境が整備されているか	17 59%	12 41%	0 0%	29
2) 研修医の診療内容や説明について、指導医等から適切な助言・指導が行われているか	10 34%	18 62%	1 3%	29
3) 臨床研修が組織的・計画的に行われ、管理体制が適切に確立されているか	17 59%	11 38%	1 3%	29

2. 研修医の基本的診療能力に関する事項	a	b	c	計
1) 患者・家族や他の医療従事者と十分なコミュニケーションをとり、良好な関係を築いているか	17 59%	12 41%	0 0%	29
2) 患者の問題を把握し、検査や治療の計画の全体像を把握して診療にあたり、臨床上の疑問を解決するための自己学習の習慣が身についているか	15 52%	12 41%	2 7%	29

調査結果②(小項目)評価 評価(○/△/×)ごとの病院数

評価項目	○	△	×
------	---	---	---

1. 臨床研修病院の指導管理体制に関する事項

○：適切 △：概ね適切 ×：不適切

1) 研修を行うのに十分な症例や研修にふさわしい環境が整備されているか。

① 医療安全管理体制が適切に確保されている	25	4	
② 検査・処置などが安全に実施出来ている	28	1	
③ 研修医アンケートの「基本的な臨床検査・手技」について、23項目中(○:16以上の、△:4~15、×:3以下の)項目で自己評価がB以上である*	27	2	
④ 同上「経験症例数」について、37項目中(○:22以上の、△:5~21、×:4以下の)項目で6例以上の経験がある*	27	2	
⑤ 図書・雑誌・インターネット利用環境が整備されている	25	4	

2) 研修医の診療内容や説明について、指導医等から適切な助言・指導が行われているか。

① 上級医の回診や症例検討会が定期的に行われている	27	2	
② 指導医が適切に診療録を確認している	11	17	1
③ 診察の結果、適切な診断を行っている	23	5	1
④ 退院や退院後の方針の決定が適切になされている	25	4	

3) 臨床研修が組織的・計画的に行われ、管理体制が適切に確立されているか。

① 研修管理委員会が適切に運営されている(省令の施行通知に定める研修管理委員会に関する要件を満たしている)	24	4	1
② 研修医の評価が、EPOCまたは到達目標の達成状況について指導医による評価が明示された書類を使って適切に行われている	21	8	
③ 臨床研修病院群の中で、臨床研修に関する情報の共有等臨床研修に関して機能的な連携・調整が行われている	23	5	1

調査結果②(小項目) 評価(○/△/×)ごとの病院数

評価項目	○	△	×
------	---	---	---

2. 研修医の基本的診療能力に関する事項

1) 患者・家族や他の医療従事者と十分なコミュニケーションをとり、良好な関係を築いているか。

① 入院中の診察内容・診断について、患者・家族に適切に説明している	20	9	
② 診療において、他の医療従事者と適切なチーム医療が出来ている	25	4	
③ ハイリスクの治療・検査において「説明と同意」が行われたことを診療録に記載している	21	8	

2) 患者の問題を把握し、検査や治療の計画の全体像を把握して診療にあたり、臨床上の疑問を解決するための自己学習の習慣が身についているか。

① 入院の目的を正しく理解している(研修インタビュー小項目1より記入)	24	5	
② 診療録の記載が適切(現病歴・既往歴・家族歴や身体診察の所見等の基本情報が適切に記載されている)	18	9	2
③ 検査計画や治療計画が適切に立てられている	23	6	
④ 退院時サマリーが適切に記載され、提出期限が守られている	25	4	
⑤ 研修医が臨床上の疑問を解決するための情報収集方法を知っており、実践している	26	3	

調査結果③ 病床数別、年間入院患者数別評価

(人) 年間入院患者数		病床数 (床)		<150	151-200	201-250	251<	計
		A	B					
<1500	A						1	1
	B	3						3
	C						1	1
1501-2000	A	1						1
	B	3	3	1	2			9
	C		1					1
2001-2500	A		1	1				2
	B				2			2
	C							0
2501<	A							0
	B	1	5		3			9
	C							0
計			8	10	2	9		29

調査結果③ 病床数別、年間入院患者数別評価

(人) 年間入院患者数		病床数 (床)				計		
		<150	151-200	201-250	251<			
<1500	A				1	1		
	B	3	I			3		
	C					1	1	
1501-2000	A	1	(11)			1		
	B	3			3	1	9	
	C				1	2	1	
2001-2500	A		1	1		2		
	B	III		IV		2	2	
	C					0	0	
A	(6)					(7)		0
B			1	5	3			9
C								0
計		8	10	2	9	29		

調査結果③ 病床数別、年間入院患者数別評価

	I			II			III			IV		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
総合評価	1	9	1	1	3	1	1	6		1	5	
	9%	82%	9%	20%	60%	20%	14%	86%		17%	83%	

1	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c
1)	7	4		3	2		3	4		4	2	
	64%	36%		60%	40%		43%	57%		67%	33%	
2)	4	7		3	1	1	2	5		1	5	
	36%	64%		60%	20%	20%	29%	71%		17%	83%	
3)	7	4		3	1	1	4	3		3	3	
	64%	36%		60%	20%	20%	57%	43%		50%	50%	

2	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c
1)	8	3		3	2		3	4		3	3	
	73%	27%		60%	40%		43%	57%		50%	50%	
2)	6	4	1	3	1	1	4	3		2	4	
	55%	36%	9%	60%	20%	20%	57%	43%		33%	67%	

調査結果④ 研修医アンケートより

☆ 2年次研修医(34名)のローテーション状況

- 平均**70.6%**の期間を基幹型病院で研修
- 全員一度は基幹型病院で**内科**を研修
- 内科以外では、**外科**(30/34名)、**救急**(18/34名)について、一度は基幹型病院で研修しているケースが多い

調査結果④ 研修医アンケート(全68名)より

【よかった点】(自由記載欄の主な感想)

診療科間の垣根が低く、他科の先生方にも相談しやすい	20
マンツーマン等、密度の濃い、丁寧な指導に満足	16
症例や手技を数多く経験できる	14
プライマリケアが身につく	10
コメディカルスタッフとの距離がなく、病院全体で育ててもらっている	10
プログラムや研修内容を柔軟に設定できる	10
他院との連携により十分な研修ができた	4
一人の医師としての自覚が育った	4
在宅、慢性期もあるので最期まで患者を診られる	3
学ぼうという姿勢さえあれば無限の可能性がある	2

【残念だった点】(自由記載欄の主な感想)

診療科が少ない (経験できない分野がある、途中で進路変更したときに身動きがとりにくい)	6
専門的な勉強がしにくい、EBMに不満	2
勉強会をもっと開催してほしかった	2
外科では、手術症例が少なく残念	2
当直後の通常勤務がきつかった	2
症例数が少ない	1

○ 小規模の臨床研修病院に対する実地訪問調査

考察)

小規模研修病院として、平成21年度、22年度の2年間に研修医の受け入れ実績があり、新規入院患者が年間3000人未満の6病院を訪問し、その研修体制・実施状況を調査し、研修医に対するインタビューを通じて教育成果を検証した。

研修体制に関してはすべての病院において研修管理委員会などが適切に運営されていた。また、指導者の数、質ともに要件を満たしていたし、さらにいわゆる教育熱心な指導医が多いように見受けられた。小規模病院の特徴として、研修医個人々人に対応したきめの細かい指導とコメディカルスタッフを含めた病院全体の温かい家庭的な雰囲気¹が共通して見られた。小規模病院ではすべての診療科を自病院で研修することはできにくく、近隣の大病院と連携している事実が明らかになった。その連携の実態は、きめ細かいものが多く、研修医の満足度も高かった。

研修医のインタビューを通じて明らかになったことは、きめ細かい指導を受けているため概して臨床能力は高く、臨床研修の到達目標にある行動目標、経験目標はしっかりと達成しており、むしろ標準以上と思われた。

結論)

今回訪問調査を実施した小規模の基幹型臨床研修病院においては、臨床研修は充分に行動目標、経験目標を達成することができており、このような病院であれば価値観や将来の専門性など多様性を持った医師の卒後教育にとって有用と考えられる。

また、臨床研修病院ならびに臨床研修プログラムの質を評価するため、今回実施したような訪問調査が有効と考えられる。